



西階中学校(2年生)の取組～よのなか教室 <6回連続>

西階中学校の2年生(3クラス、109人)は、6回連続のよのなか教室を実施し、働くことの意味やこれからの生き方等について学びました。

1. 4月30日(金) 14:00～ 序章 「講話・働くこととは」

講師 細川 真由美さん(みやざき若者サポートステーション コーディネーター)

内容 「働く」ということは、誰か(何か)のために行うもの、役に立つこと」や中学生のこの時期に何をしなければならないかなど、ワークショップを交えて講話をしていただきました。



2. 5月14日(金) 14:00～ 「地域人講話」

講師 松井 信介さん(西階町 旭化成OB) ※コロナ感染防止のため中止

3. 5月26日(水) 9:45～ 「夢を育む講演会」



講師 吉岡 由華さん(株)ななせ 代表取締役)

野中 正樹さん(株)TANI 代表取締役)

塚元 秀樹さん(株)フィットネスアカデミー・ターザン 専務取締役)

内容 「失敗は成功のもと・更なる挑戦」というテーマで、3名のよのなか先生に講話をしていただきました。その後、3名のよのなか先生と生徒代表によるパネルディスカッションが行われ、将来の夢や希望を考える時間になりました。

4. 5月27日(木) 14:00～ 16:00 「哲学対話」

ファシリテーター 甲斐 慶太郎さん(U35nobeoka 未来会議)他 10 名

内容 11 名のファシリテーターのご協力で、「哲学対話」を行いました。9 つのグループに分かれ、グループ毎のテーマに基づいて熱心な対話を行うことができました。



5. 6月4日(金) 14:00～ 15:25 「夢を育む講演会 その2」

(生徒たちへのアンケートから 5 業種を選定)

講師 黒木 保善さん((株)昭和代表取締役社長)

滝口 一喜さん(延岡信用金庫 企業支援課 課長)

岩本 武士さん(情報関係)

長濱 浩人さん(延岡市人材政策・移住定住推進課 主事)

吉田 希美さん(県立延岡病院看護部 がん看護専門看護師)

内容 5名のよのなか先生に25分の講話を3回行っていただきました。将来の夢や仕事のことなど、講師の方の貴重なお話に触れ、生徒は、具体的な目標をもつことの大切さに気付きました。



6. 6月10日(木) 14:00～ 15:00 最終章 「講話・君たちはどう生きるか～

君たちの未来は可能性に満ちている」

講師 水永 正憲さん(延岡市キャリア教育支援センター長)

内容 「君たちはどう生きるか、君たちの未来は可能性に満ちている」というテーマで、講話を実施しました。「君たちが漕ぎ出す社会は、可能性に満ちている」「身近なところに多様な働く姿がある」「自分にとって幸せとは何かを考えることが大事」等のお話を聞き、生徒たちも、これからの生き方について考えを巡らせていました。

◇ 今回のよのなか教室の実施について、関係の皆様のお思いや感想をご紹介します。

＜西階中学校・城戸勇司校長先生＞

コロナ禍のなかで、各行事が延期や中止になっている現状があります。しかし、生徒にとっては、その学年は一生のうちで1回きりです。コロナ感染の状況(県・市)を把握し、基準に基づいて大丈夫だと判断できれば、できるだけ、行事や体験活動を行いたいと思っています。もちろん、無理な状況の場合は、前日に止めることもあります。少しでもチャンスがあれば、校長の責任の下に実施するというのを先生方にも伝えています。



キャリア教育に関しては、子どもたちに、夢をもってほしい、見つけてほしいと思っています。そのためには、夢や目標に向かって、今、何をすべきかを見つける機会が必要です。そういう意味で、キャリア教育の充実、学校経営の重要な柱だととらえています。いろいろな人の話を聞く、人との出会いの場を与えることが夢に向かわせる契機になります。その機会を与えることが教師の使命であると考えています。

今回のよのなか教室を通して、生徒の成長が感じられました。目標をもって学習に取り組まなければならないという意欲が高まってきたことを痛感しています。また、生徒たちは、先生方が行事や活動に対して、前向きに取り組んでくれていることを感じています。これからも、アンテナを高く、社会の状況(コロナ)、その他の情報収集に努め、感染防止をしっかりと行いながら、生徒の学びを保証していきたいと思います。

＜西階中学校・岩本武蔵先生＞



コロナ禍で体験活動を行ったり、外部の方に来ていただいたりすることが困難な状況ですが、校長先生の、可能な限り行事等を実施する(危険な場合は中止)という方針を受けて教育活動に取り組んでいます。生徒のためには、授業では経験できない内容や活動を取り入れていくことが必要であり、今回の6回連続のよのなか教室は、大変意義がありました。多業種の方の講話、パネルディスカッション、哲学対話など、つながりがあり、うまく機能したととらえています。生徒は、将来のために今頑張らなければいけないということを強く感じていましたし、

働くということについて、イメージや視野が広がったようです。

2学期は、1学期の活動を継続させ、職場体験の工夫、先輩の講話、タブレットを用いた調べ活動など、生徒が主体的に学習に取り組めるよう支援していきたいと思います。また、学習活動の成果をアウトプットできるよう、立志式や参観日での発表につなげていきたいと考えています。

＜延岡市キャリア教育支援センター・敷石輝幸さん＞

6回シリーズで「よのなか教室」を行いたいという依頼を受け、講話の他に、パネルディスカッションや哲学対話、ひなた場の実施について提案させていただきました。その結果、「パネルディスカッション」と「哲学対話」を実施することになりました。講話を聴くだけでなく、生徒自身も参加するというので、今回の取組が印象深いものになったと思います。「働くこと」についての一連の流れで取り組んだことの効果は大きかったと思います。



特に「哲学対話」においては、生徒の感想文からも、「自分と違った色々な考え方を知った」とか「発言を否定しない等のルールの下で、自分の考えを抵抗なく話せて楽しかった」等の声があり、大変良かったと思います。また、多くのファシリテーターの方のご協力もあり、実施することが出来たと思います。

この「哲学対話」が何らかの形で定着することを願いたいものです。